

平成 29 年度第 3 回図書館セミナーを開催！

平成 29 年 8 月 29 日(火)医学図書館 1 階ブラウジングコーナーで中根裕信先生（医学科解剖学）を講師に図書館セミナー「しる：探る 気づく 理解する」を開催しました。この度は「解剖図-芸術家との関係」をテーマに話されました。

まず先生が、参加者に 2 枚の解剖図（蔵志と解体約図に掲載）を示され、どちらの解剖図が実際の人体の臓器に似ていますかと尋ねられました。参加者は、全て解体約図の解剖図を選びました。先生から、解剖図が実物によく似ている理由として、西洋画法の遠近法や陰影を使う表現を説明され、人体や臓器の奥行や立体感を表現するために欠かせない技法とのことでした。こういった技法が使われているのは医師から解剖図作成の依頼を受けた芸術家たちの影響もあるのではと話されました。ルネサンス期の有名なレオナルド・ダ・ヴィンチ、ミケランジェロらも、教会から依頼された壁画や彫刻を作成するために、教会の許可を得て人体を解剖し、人体に関する詳細な知識を得て、作品に表現していったそうです。例としてミケランジェロの描いたシスティーナ礼拝堂の天井画の一部に隠し絵として大脳半球と脳幹があるそうです。このような作品では芸術家たちの神のみならず神が創られた人体への畏敬の念が表現されています。

その意味で、医療従事者は専門的な知識や身体の状態を患者さんやご家族に伝える必要があり、伝える表現力を磨く大切さについて話されました。

参加者から、「学んだことをどう表現するか、という視点を持って学習できる」、「解剖図を見るときや解剖を行う際に興味を持って取り組めそう」、「表現力をつけることが大切というのはレポートの表現や講義の理解イメージにつながると思う」等の感想をいただきました。

医学図書館では、学生さんに人体への理解を深めていただき、幅広い教養と人間力を身に着けていただく契機となるよう今後もこのような企画を計画して参ります。皆様のご来館をお待ちしております。

参考文献：

Concealed Neuroanatomy in Michelangelo's Separation of Light From Darkness in the Sistine Chapel. Suk, Ian, BSc, BMC et al., Neurosurgery. 66(5):851-861, 2010

The hidden symbols of the female anatomy in Michelangelo Buonarroti's ceiling in the Sistine Chapel. de Campos D et al., Clin Anat., 29(7):911-6, 2016

